



社協ふくし祭

ゆいっこ広場 in 花泉開催

ふれあいネットワーク

いのせき

社協だより

第13号

(2009年11月30日発行)



10月18日(日)。当日は天候にも恵まれ、市内及び近隣から650人を越える来場者があり、盛況なふくし祭りとなりました。

「心のつながりを大切にするまちづくり」をテーマに、市民の皆様に、地域の福祉活動をもっと身近に感じてもらう機会になればと願い開催しました。

市内関係団体15団体からのご協力をいただき、小中高校生による福祉作文入賞作品朗読、保育園・幼稚園児によるお遊戯発表、バザー、子育てサロン体験、レクリエーション体験、高齢者擬似体験、介護予防教室体験、虫歯相談、介護用品展示、炊き出し訓練、もち振る舞い、お楽しみ抽選会等々、多くのコーナーを開設し、終日賑わい、交流を図ることができました。



この広報は共同募金の一部をあてて発行しております。

地域活動団体紹介

NPO法人
響生

児童デイサービス リトル・ピース

同NPO法人は、音楽療法士を含め七名のスタッフで運営され、児童デイサービスのほか音楽療法、レスパイトサービスなどを提供しています。

石磨きで繋がる人々

大東町大原・下内野地区では地区内を流れる砂鉄川の浄化活動に取り組んでいます。

この活動は家庭排水等による河川

の汚染を石磨きすることで石に付着した有機物を流し、石の下に酸素を送り込み清流化につなげるという活動で、平成六年から数え、今年で十五回目。

以前はこの川に、清流に生息するカジカやイワナが多くいましたが、汚染により棲家を失い、その数は年々減少してきました。

この取り組みのきっかけを作ったのが日本大学生物自然科学部の河野英一教授。大東町には日本大学の研修施設があり、同大学生物自然科学部の学生が農業体験を通じ、この課題に着目。毎年、同学部地域環境保全学研究室の学生が河野教授とともに町内農家の研修と石磨き大会に参加しています。中には卒業後も第二の故郷と慕い毎年参加しているOBもあり、この活動を通して魅力ある里を感じているようです。



今年は地元住民、日大学生、市内から約百五十人が参加し清流砂鉄の石磨きに汗を流していました。年々参加者も増え、清流を取り戻す活動が農村地域の活気も取り戻し、いずれは人も戻るような大きな活動になってきているようです。

東磐井郡地区初の児童デイサービス事業所「リトル・ピース」を運営しているのは、昨年末にNPO法人の認可を受けた「響生」です。

響生は、今年四月から千厩地域にある旧奥玉保育園跡地で、特別支援

学校などに通う児童のデイサービス事業を開始しました。

これまで、東磐井地域には特別

支援学校がなかったので、遠方にある特別支援学校への通学や寮生活を余儀なくされていたため、多くの利用者や保護者から、地元に特別支援学校の設置要望が出されていました。

その結果、平成十九年四月から一関養護学校（現、清明支援学校）千厩分教室が開設されました。

さらに、分教室の開所に併せ、家庭と学校との中間部分を支える児童デイサービスの提供事業所の招致が切望されておりました。その要望に応えて誕生したのが、このリトル・ピースです。



利用者と地域の人々が参加したマリンバコンサート

また、施設のある奥玉地区の住民を招いてのマリンバコンサートや音楽療法体験のほか、市民フェスタへの参加や地元高校生の福祉体験受け入れなどを実施しながら、地域に開かれた施設運営を目指しています。

随時見学を受け付けておりますので、リトル・ピースの活動をご覧ください。

支部通信



一関支部

子育て支援組織「ゆづりは」と子育てボランティア「わ・わ・わ」の二つのボランティア団体が協力し、平成十七年に一関地域子育てネットワーク「虹」として活動を開始しました。

「虹」は、子育て支援として託児を中心に行事支援や育児サークル支援活動を開催してきた中で、参加する親との信頼関係を育みながら、子育てに関わる様々な相談を受けてきましたが、「親子で楽しい時間を過ごす場」の提供が必要と考え、新鮮館おおまち内に「おやこ広場」を開設したものです。

以前の「広場」は毎週三日、午前十時～午後三時の開設であり、乳幼児を持つ親とその子供たちの交流促進、子育てに関する相談・援助などを展開し、一日当たり平均して二～三十組と利用実績を徐々に伸ばしてきましたが、近年、利用者から「周りに遊び場がなく、交流もできない。



家の中だけではストレスを感じてしまうので、週三回だけでなく、毎日でも利用したい」という声が多くなってきましたので、親子の声を自らの活動に展開できる組織とするため、昨年九月に特定非営利活動(NPO)法人『いちのせき子育てネット』を立ち上げました。又、「子育て中の親子の為、おやこ広場事業の拡充

代表の岩渕さんは「私達は特別な活動をしているわけではない。今後とも親子の目線に立つて事業内容を充実させ、利用者らの信頼に応えていきたい」と語っています。

(電話 ○一九一一二六一六四〇〇)
十二月下旬には社協主催の高校生保育ボランティア体験を「いちのせき子育てネット」の協力により実施予定です。

東山支部

東山ボランティア連絡協議会(佐々木忠市会長)は、十二のグループで構成され、普段は各自独自の活動をしていますが、毎年恒例の共通した活動の一つとして、赤い羽根共同募金の街頭募金を行なっています。

今年は、十月一日から十六日までの十一日間、げいび渓舟下りの船着場付近でそれぞれ三～五人が揃いの黄色いハッピを着て募金を呼びかけました。午前十時から午後二時頃まで募金をお願いして、三千円程から中には一万円近くまで集まる日もありました。



声をかけても無視して行く人も多いようですが、十円、二十円でも入ってきてくださる子どもさんもいるということです。おしゃべりしながら和気藹々と楽しみながら活動していることが長年続いている理由のようです。「九州から来ましたし」「大阪の中学校の修学旅行です。」など、そちらから寄つて来て話してくれるのは、田舎のおばちゃん、おじちゃんの親しみやすさのなせる技でしょうか?

川崎支部



十一月二十二日、川崎公民館において「暮らしを支えるボランティアの集い」が開催されました。県内から百人を超える人が集まり、熱心に学習しておりました。

午前中は川井村社協と県社協の対談「見守りシステムがもたらす効果を考える」。

社会的孤立化が進む中で、一方には個人情報保護のこともあり、「ほど良いおせつかい」が大事になつてくるのではないか。又、隣近所の見守りの限界を「モード」と呼ばれる

防災につながる見守り」のサブテーマで、私たちが今までできることは何かという視点で話し合いを行いましたが、一時間三十分という短時間にも関わらず、「話題提供」、「グループ討議」、
「グループ発表」、「全体討議」と順に進められ、参加者は密度の濃い時間を味わっていました。

千厩支部

木々の葉っぱが赤や黄色に染まり始めた十月半ば、千厩町では地区毎にひとり暮し高齢者の懇談会が開催されました。

各地区の福祉活動推進協議会と共催で開催されているこの懇談会は、昭和五十九年に始まり今年二十六回目を迎えました。ひとり暮しの皆さんとの心配事の相談に応じたり孤独感の解消や仲間づくりにつながれば

システムで補つているが、現在は有効に機能しているものの、今後の高齢化の進行や限界集落化を考えるとき不安は拭い去ることができない、と川井村の職員は事例発表しておりました。

午後は分科会形式で、共通テーマは「安心して暮らすために私たちにできること」。第一分科会「子ども・子育て家庭の見守り」、第二「高齢者・障害者の見守り」、第三「防犯・

講話や血圧測定があつたりして。

楽しい一日を終え帰路に着く頃「楽しかったね」「来年が待ち遠しいね」等の声が聞かれ、皆さんが毎年心待ちにしてくださっている様子が伝わってきます。「来年もお元気で参加してくださいね！」



と、地区推進協や民生委員、各地区公民館や支所等、まさに地域の皆さんのご協力によって実施されています。

千厩町内では、六十五歳以上の高齢者約三百二十人がおひとりで生活していますが、今年は約百十人の参加がありました。美味しい料理に舌鼓を打ち温泉で温まって、歌つて踊つて笑つてそして時には保健師の講話や血圧測定があつたりして。

楽しい一日を終え帰路に着く頃

室根支部

十一月七日～八日、室根きらめきパークを会場に「室根産業文化祭」が開催されました。地元の農林・商工業、文化芸能、健康福祉、交通防災等各部門の振興発展により、より住みよい地域づくりを目的にしているもの。

このイベントに「きらめきサロン・むろねお達者クラブ」（生きがいデイサービス・デイサービスセンター室根の愛称）が出品参加しました。ほんの一畳半ほどのスペースでしたが、利用者さんの作品を展示したところ、特に目を引いたのは、高さが一m三十cmもある特大サイズの灯笼と新聞サイズの台にリースをかたどつた二枚組の押し花の壁掛けです。

そして、利用者さんの尋常小学校時代のお習字も。

自分たちの作品を見た利用者さんは大変喜んで、「来年の出品は何にするか」と早くも次の製作に思ひを巡らせておりました。



介護者の集い

（共同募金運動にご協力を）

在宅で高齢者らを介護する人達に気分転換をしてもらう「平成二十一年度在宅介護者の集い」が十一月十四日(土)～十五日(日)、宮城県平塗町「ニュー泊崎荘」で開かれました。参加者は社協職員によるレクリエーションや参加者同士の会食懇親や入浴を楽しみながら、日ごろの疲れを癒していました。今回は介護者等十七人が参加し、交流を深めました。



集いでは、レクリエーションインストラクターでもある社協職員が進行し、数人でグループを作り、唄を唄いながら身体を動かすなど、頭と身体の体操を行つたりしましたが、参加者は普段行わない動きのある手くできた」「なかなか難しい」など、笑いを誘いながら進められていきました。

会食懇親では家庭での介護の様子や体験などを打ち明け合い、今後の介護の参

考になったようです。参加者は日頃の苦労を話しながらも、「この様な場を提供してもらい、感謝している。」「この会に参加するのを楽しみに元気に介護を頑張り、また参加をしたい。」「もつと沢山の参加者があればもっと交流できたのに残念だ。」など、介護者リフレッシュ事業に期待を寄せていました。

一関市の高齢化率は年々上昇しており、十月末現在の高齢化率は二十九・五五%で、昨年同期と比べ〇・五二ポイント上がっています。このことに伴つて、介護者の数も増えており、一関市社協では高齢化が進行する中で、介護者支援の充実は課題となっていることから、合併後、この「在宅介護者の集い」を一泊と日帰りの二回に増やしています。



10/10 一関修紅高等学校の皆様
イオンスーパーセンター一関店

赤い羽根共同募金

（十月一日から）

共同募金は、民間福祉事業を支援するため、社会福祉法により制度支援されている募金です。寄付や募金活動という誰もが参加できる活動を通じて、社会福祉に対する理解を深めていただくとともに、ご協力をお願いしているところです。昭和二十三年から「赤い羽根」が、昭和三十四年から「歳末たすけあい運動」が展開され、今日にいたっています。

共同募金は、都道府県ごとに社会福祉法人の共同募金会があり、市町村には共同募金会の内部組織として、分会（一関市分会）が設置されています。平成十二年に社会福祉法改正により共同募金が地域福祉を推進する募金に位置づけられたことから、今後一層共同募金会と社協の連携を密にして、地域福祉事業の推進を図つてまいります。

歳末たすけあい運動募金

（十二月一日から）

	街頭募金 法人募金	学校募金	職域募金	イベント募金	個人・その他
合計	○件	三件	二三件	一件	一〇三、一九一円
	一二二件	二七、五六七円	二六五円		二、五六五円
		三八四、〇〇〇円			
			二二件		一〇三、七八八円
				一件	四三、七八八円
					五、一九五、四〇六円



「みんなでさかい地域づくり」をスローガンに、歳末たすけあい運動募金をお願いします。新たな年を迎える時期に、支援を必要とする方々に対し、地域で安心して暮らすことができるよう生活支援を中心にお助成を行つてまいります。市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

目標額 一八、四五〇、〇〇〇円
(十一月二十五日現在の実績)
戸別募金 四、六三四、二九五円
九、九八七件

地域での暮らしが考える

五回連続講座

《共同企画》

第二回講座

第三回講座は、九月十九日に「地域を元気にする！」「玉手箱」と題し、大崎地域創造研究会事務局長の小玉順子氏の講演から始まりました。

小玉氏の地域活動は子ども劇場に関わったのがきっかけで、あれから、と言う間に現在の立ち位置に置かれてしまっていたとのこと。というのも、厳しさの中にも仲間の助け合いました。

そのため、
一、住民と話し合う場の提供。そのための場所や時間の調整です。
二、課題解決のための講題に
日常活動の中で遭遇する課題に
対処する手段としてです。

氏は忙しい中、大崎市岩出山感覺
ミュージアム副館長、NPO法人せ
んたい社の子ども劇場理事も兼ねて
おられます。

一、自治組織への活動支援。住民
とどのように接していくとい
か解らないということがありま
すので、ワークショップの開催等

ノウハウの提供やお手伝いです。
一、そして、提言書の取りまとめ
です。
ワークショップ開催に当たり概ね
三つの段階を踏むようにしていま
す。第一段階は「慣れる」というこ
とに主眼を置きます。不特定多数の
人が集まるところから、まず雰囲気に
慣れもらうこと。楽しいという印
象を持っていただくことが大切で
す。第二段階では、その地域の魅力
や課題を語っていただきます。さま
ざまな角度から提言してもらうこと
に気を用います。そして最後に企
画・提言書としてまとめます。

より良い地域を作っていくために
は、このように身近な地域課題につ
いて話し合う機会や学び合う機会の設
定が大切だと思います。そしてそれ
を実践しながら深めていくこと、こ
の二つの側面を両輪とし進めていく
ことがリーダー養成にとっても必要
なことと考えております。現在は
ファシリテーター（進行役）の養成
に力を注いでいるとのことでした。

田舎には田舎にしかない良さ、例
えば花泉では餅料理、ソバ打ち、山
菜天ぷら等があるわけです。これら
を提供し都会の人々に喜んでいただく
とともに、来訪者の特技を發揮して
もらう。そのような交流に地域再生
のカギがあると思うとのこと。お茶
会や野外コンサートを行つたりして
おりますが、まず市民一人ひとりが
立ち上がるところからすべては始まる
と話してくれました。

次いで、「田舎暮らしの魅力」と
題し、交流の里“宙”代表の高橋欣
也氏から事例発表をしていただきました。
高橋氏は定年前から花泉地区山林を
開拓し、定年後仙台から移住。自宅
までお問合せ下さい。

田舎暮らしについては以前から関
心があつたのですが、病を契機とし、
自然治癒力、森林浴による癒しの効
果等を考え合わせ、奥さんの気持ち
も考慮しながらの選択だったそ
うです。

きっかけは顔面神経痛で落ち込ん
でいた時、前向きに生きることの大
切さについて医師からアドバイスを
受けたこと。

第四回講座

第四回講座は、十一月二十一日(

と題し、群馬県立博物館研究協力員の鈴木幸彦氏の講演から始まりま
した。

鈴木氏は、一関市博物館建設に当初から関わった人。イメージ設計に当たり、市民から個性ある博物館を建設して欲しいと言われ、改めて一関の個性とは何かということを考えたという。諸先学の意見を拝聴し浮かび上がってきたのが「和算」。これには八巻一雄先生からの助言という。

——その数を全国比較すると、岩手県は現存数で第二位、藩政期の算額残存数では一位。これを全国の市町村別で比較すると、一関は三十二面で、二位の愛媛県松山市の二十四面を大きく引き離している。合併後の花泉十三面、川崎八面、千厩、室根の各三面を加えると、五十八面となり圧倒的な残存数です。

和算は日本だけで発達した数学ですから、一関が算額保有数日本一ということは世界一だということになります。



るものとして、建部清庵を始めとする蘭学への貢献です。

二代清庵は蘭方医学への情熱を持ち、いい加減な蘭学への知識、技術者に対する疑問を深めていきます。その疑問を記した書簡が衣関甫軒の手を通じ、杉田玄白の元に届くことになり、以後この出会いをきっかけとして交流することとなります。その往復書簡が、のち「和蘭医学問答」として公表されます。

亮策が杉田玄白の弟子入りをし、五男伯元が養子となります。そして大槻玄沢が入門することとなり、のち私塾「芝蘭堂」の開設は、全国から門弟を集め、わが国の科学的学問研究の礎を築くことになります。玄沢の業績は数多ありますが、ここでは「蘭学階梯」、「重訂解体新書」の刊行をあげておきたい。

これまで話してきたとおり一関は、和算、蘭学を始めとし、文化的にきわめて高い地方である。歴史を振り返ることによって、江戸時代の

これまで話してきたとおり一関は、和算、蘭学を始めとし、文化的にきわめて高い地方である。歴史を掘り起こすことによって正しく郷土を理解し、そのことから郷土に対する新たな誇りや愛着、そして地域おこしの活力が生じてくることを期待し

次は私の提案であるが、身近な歴史や暮らしを楽しく語り合ってみてはいかがかと思う。水害でもいい、生活用具や農耕具などを話題にしてみてはいかがか。そんな中から地域おこしのヒントが生まれてくるのではないかと思う。

次いで「先人の叡智に学ぶ」と題して老松活性化同志会会长の佐藤教昭氏の実践事例発表がありました。同会は二十年ほど前に結成された任意団体で、これまでの主な取り組みは、和算家千葉胤秀、医学者千葉理安、そして義民千葉物左工門の顕彰です。

千葉胤秀の「算法新書」は広く知られるところですが、その生家が、雨漏りがひどく解体寸前のところを地域の力で救済し、保存することができました。

に学んだ医学者ですが、同家の保全
顕彰にもつとめております。

千葉惣左工門は農民一揆の首領で
す。その要求の正当性は認められた
ものの、禁じられていた一揆を主導
した罪で斬首に処せられます。この
家も解体寸前のところを老松活性化
同志会がもらい受け、市の援助をい
ただきながら花と泉の森公園に移築
することができました。

これら二人について顕彰のため「千葉胤秀ガイドブック」、「千葉理安ガイドブック」、「千葉物左工門ガイドブック」を作成しています。その他顕彰碑や案内板の設置、食文化の再現や先人顕彰太鼓保存会の結成などさまざまな取り組みを行つております。惣左工門については「流れ義民太鼓」として既に公表しておりますが、今は胤秀、理安の顕彰太鼓の作曲が課題となっています。

抄録を希望の方は一関公民館（一一一二一四八）にお問合せ下さい。

まごころ寄附

平成21年9月～平成21年10月

こころから
お礼申しあげます。

一関支部

真柴字中田	一関市立一関中学校 バスケットボール部父母の会様	56,559円
東五代	伊藤 チヤ様	雑巾100枚
青葉二丁目	小泉 泰子様	50,000円
蘭梅町	法泉寺護寺会檀信徒一同様	14,600円
	匿 名	10,000円

花泉支部

金沢字籠ノ沢	小野寺徳男様	50,000円
花泉町	社会福祉支援団体 らば～そらる様	22,982円
花泉町	岩手南農協女性部花泉協議会 ふれあい野菜市様	3,000円
花泉字町	菅原てる子様	100,000円

大東支部

沖田字赤菅	小山 門様	100,000円
中川字伴道	柏原テルコ様	20,000円
鳥海字川又	千葉 岩様	50,000円
大東町	大東芸術文化協会摺沢支部様	50,000円
猿沢字宿通前	菅原 庸典様	50,000円
猿沢字小森	及川 孝男様	25,000円
大原字下烏神	菅原 平様	50,000円

千厩支部

奥玉字刈屋野	佐藤 知男様	50,000円
千厩町	千厩ライオンズクラブ様	37,550円
千厩字石堂	(有)家具の小野寺様	5,900円
千厩字神子ノ沢	昆野 千代様	30,000円

東山支部

田河津字石ノ森	三浦 征一様	30,000円
長坂字東本町	伊藤 清彦様	100,000円

室根支部

折壁字勢返	米倉 正男様	30,000円
津谷川字浮野	菅原 忠男様	30,000円
津谷川字浮野	畠山 和夫様	20,000円
矢越字高沢	三浦 功様	50,000円
矢越字二本木	小野寺幸夫様	50,000円
折壁字愛宕下	三浦 清様	20,000円

川崎支部

薄衣字諏訪前	松岡 和男様	100,000円
薄衣字陳が森	佐藤 照子様	150,000円
薄衣字諏訪前	菅原 俊一様	100,000円

おわび 第12号のこのコーナーでお知らせした、東山支部への寄附で宮城県利府町「岩渕仲」様は「岩渕伸」様の誤りでした。お詫びして、訂正させていただきます。

一関市社会福祉協議会では介護保険事業所の職員を募集しております。希望される方は下記にお問い合わせ下さい。

○介護支援専門員……1名

【申込先・問い合わせ先】
一関市社会福祉協議会大東支部
住所：一関市大東町渋民字大洞地55-8
電話：71-11177
担当：佐藤大東支部長

○看護師又は准看護師……1名

【申込先・問い合わせ先】
一関市社会福祉協議会東山支部
住所：一関市東山町西本町139-1
電話：47-3238
担当：村上東山支部長